

社内の全データをセキュアなクラウドで管理 災害時の事業継続と柔軟なアクセスを両立する

BCP 対策

USER PROFILE
岡庭建設株式会社
【業 種】 建設業

【事業内容】 住宅の設計、施工、リフォーム、リノベーション

【所 在 地】 東京都西東京市

【従 業 員】 25名 (2019年1月現在)

「地域の工務店」として地元に着目し、住宅の設計、建築、修理・リノベーション、不動産取引までをワンストップで行ってきた岡庭建設様。事業の多角化、拡大に伴って社内のデータ量は増す一方だが、社内のNAS(ネットワーク接続ハードディスク)に頼った運用で複数拠点でのデータ保全是大きな負担になっていた。災害時にも事業を継続できる基盤の強化を模索する中、全データのクラウド管理を実現。「フレッツ・VPN プライオ」によって安全で快適な利用環境を整備し、BCP(事業継続計画)を推し進めるための基盤を整備した。ネットワークを見直した経緯、サービス導入後の効果を聞いた。

お客さまが抱えていた課題

- NASに頼ったデータ運用でデータ保全の負担が過大になり、事業継続に不安があった
- クラウドの導入に際し、大容量でも快適なネットワーク環境を担保しなかった

導入サービス (2017年12月導入)

- フレッツ・VPN プライオ
- クラウドゲートウェイ サーバーホスティング
- ギガらくWi-Fi
- おまかせサイバーみまもり
- おまかせアンチウイルス

サービス導入効果

- 全データをクラウドで管理し、BCPを考慮したネットワーク環境が構築できた
- 大容量でも快適に通信できる接続サービスの導入により、業務データがスムーズに運用できるようになった

8テラバイトに増大した社内データの管理に苦慮

1970年に創業した岡庭建設は地域に根差した工務店として、近年は太陽熱や自然素材を活用したりするなど、地球環境に配慮した家づくりに注力している。設計・施工、リフォームといった工務店の業務をはじめ、時代に合わせた中古住宅のリフォーム、

リノベーションにも注力するほか、グループ会社では不動産事業も手掛けている。事業の拡大につれて拠点も増加し、社内のデータ共有が活発になる中、データ量の急増が大きな課題になっていた、と同社経理・総務部部長の豊村信一郎氏は語る。

「住宅設計用のCADデータ、見積書などオフィスの業務データのほか、建築現場の管理用写真、広報・展示会用の画像データなど、社内で共有するデータの量は事業の多角化に伴って急増する一方でした。データ管理にNASを利用してきましたが、キャパシティーの管理には頭を悩ませていたのです」(豊村氏)

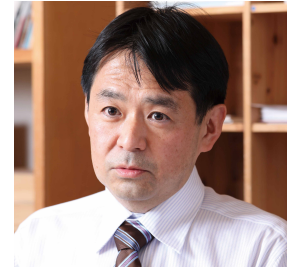
同社は、本社社屋とは別にリフォーム部門オフィス、不動産事業会社、モデルハウスの3拠点を構える。これまでは本社に設置したNASにVPNで接続し、データを共有・連携していたが、データ量の急増にNASの容量が追い付いていかなかったという。

「個人のパソコンに保存したファイルを部署内で共有せず、作業後にはそれぞれが共有フォルダに保存したりしていたため、データの重複が増えていました。その結果、容量を超えるたびNASを次々増設することに。NASがトラブルにあうと、バックアップからの復元作業にも多大な時間と手間がかかり、業務が止まってしまうのも悩みの種でした」(豊村氏)

社内の総データは実に8テラバイトにまで肥大化。NASの故障でデータを消失し、リカバリーを試みたがデータの一部は復旧できなかったこともある。業務の停滞、設計図の再デジタル化などのコストは増大し、NASに頼った運用の限界が見えてきた。折

しも、東京都と全国木造建設事業協会が仮設木造住宅の建設について協定を結ぶ。これにより、全国木造建設事業協会東京都協会の主幹事務店を務める同社は仮設住宅の設計・施工も担うことになる。

「災害が発生したら、仮設住宅の図面データを都下の工務店に迅速に展開するのが当社の役割です。この図面データは常に安全にバックアップし、しかもセキュアに管理しなければなりません。BCPを考える上でも、社内データのクラウド化が求められていました」(豊村氏)



岡庭建設株式会社
経理・総務部 部長
豊村 信一郎 氏

トワークが最適な選択肢だと考えられました。インターネットの接続点はおまかせサイバーみまもりによって情報セキュリティを強化し、オフィスのデバイスにおまかせアンチウイルスを導入することで図面などの重要データの漏えいを防ぎます。ネットワークから末端の機器まで、トータルでセキュアな環境が整備できるのです」(豊村氏)

コストと情報セキュリティ対策からクラウドを検討

クラウド化を視野に入れ、さまざまなソリューションを検討する同社。しかし、数テラバイトに上るデータ容量をクラウドで管理するコストは想定以上に高く、そして安定・高速なネットワーク環境との両立も課題だった、と豊村氏は導入検討時を振り返る。

「当初、他社のサービスも検討しましたが、運用コストは見合いません。そこに、NTT東日本から『フレッツ・VPN プライオ』『クラウドゲートウェイ サーバーホスティング』の提案があり、大きな魅力を感じました。『フレッツ・VPN プライオ』によって大容量でも快適に通信できるネットワーク環境を構築し、『クラウドゲートウェイ サーバーホスティング』によってクラウドと閉域ネットワークサービスとの接続が可能になるからです。運用コストも予算規模に見合っており社内のデータ管理方法の見直しを進められるという期待もありました」(豊村氏)

「クラウドゲートウェイ サーバーホスティング」はクラウドと閉域ネットワークサービスとの接続機能を提供するサービスだ。さらに、「フレッツ・VPN プライオ」によって大容量データでも快適に通信できる環境が構築できる。このマッチングにより、同社の業務データはすべてクラウド上に保管が可能になった。「おまかせサイバーみまもり」「おまかせアンチウイルス」などのサービスも情報セキュリティ対策強化が期待されての導入だ。

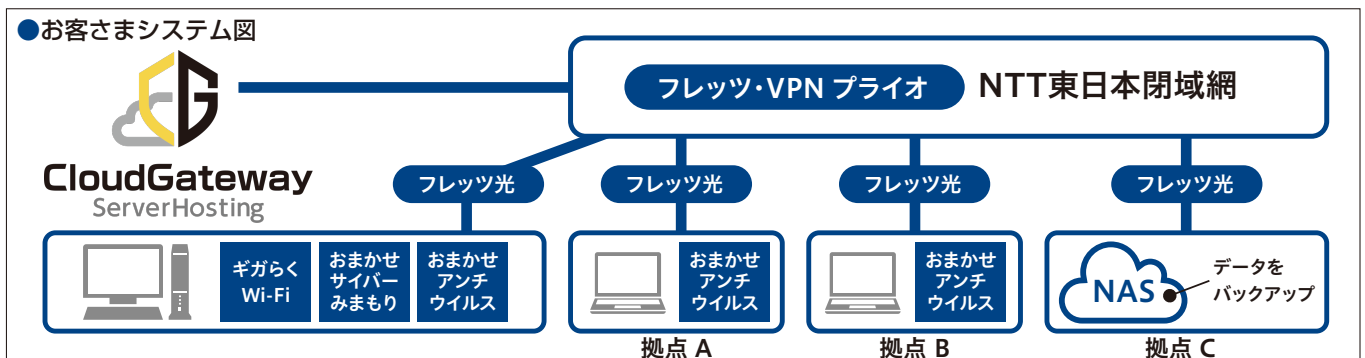
「取り扱うデータ量を考えると、安定してセキュアな閉域ネット

導入サービスの相乗効果を業務に生かす

NASのバックアップなどの運用負担はなくなり、データ消失の不安からも解放された。データ運用をクラウドに一本化したことで共有の意識も社内に浸透し、8テラバイトまで肥大化していた総データを3テラバイトまで圧縮整理できている。バックアップ用NASで、クラウドのデータを自動的にミラーリングする仕組みも構築した。これにより、データ消失リスクを低減するBCPが実現している。

「フレッツ・VPN プライオによってクラウドへのアクセスは想定通りに速く※、スムーズ。ローカルにデータを置いていた頃と同じ感覚で作業できています。情報セキュリティ対策が強化されたことで一部スタッフが自宅から会社のパソコンをリモート操作したり、お客さまとの商談やプレゼンの際にクラウドのデータを参照したりと、働き方や接客も変革ができています。導入したサービスのマッチングはセキュアでスピーディーな業務に直結します。タブレット端末を活用して建築現場での図面確認や施工管理をスムーズに行い、展示会ではVR(仮想現実)を活用してプレゼンテーションするなど、新たなICT環境を全社的にフル活用していければと思います」(豊村氏)

※フレッツ・VPN プライオはベストエフォート型サービスのため、通信速度や通信品質、常時接続性を保証するものではありません。



※文中記載の会社名および製品名などの固有名詞は、各社の商標または登録商標です。

※文中記載の組織名・所属・肩書き・取材内容などは、すべて2019年1月時点(インタビュー時点)のものです。

※上記事例はあくまでも一例であり、すべてのお客さまについて同様の効果があることを保証するものではありません。

ご購入いただいた
サービスについて詳しくは

<https://business.ntt-east.co.jp/service/vpnprio/>
<https://business.ntt-east.co.jp/service/>

VPNプライオ 検索

お問い合わせ : case_study-ml@east.ntt.co.jp

2019年3月発行 東日本電信電話株式会社 〒163-8019 東京都新宿区西新宿3-19-2 K18-10973 [1903-2002]